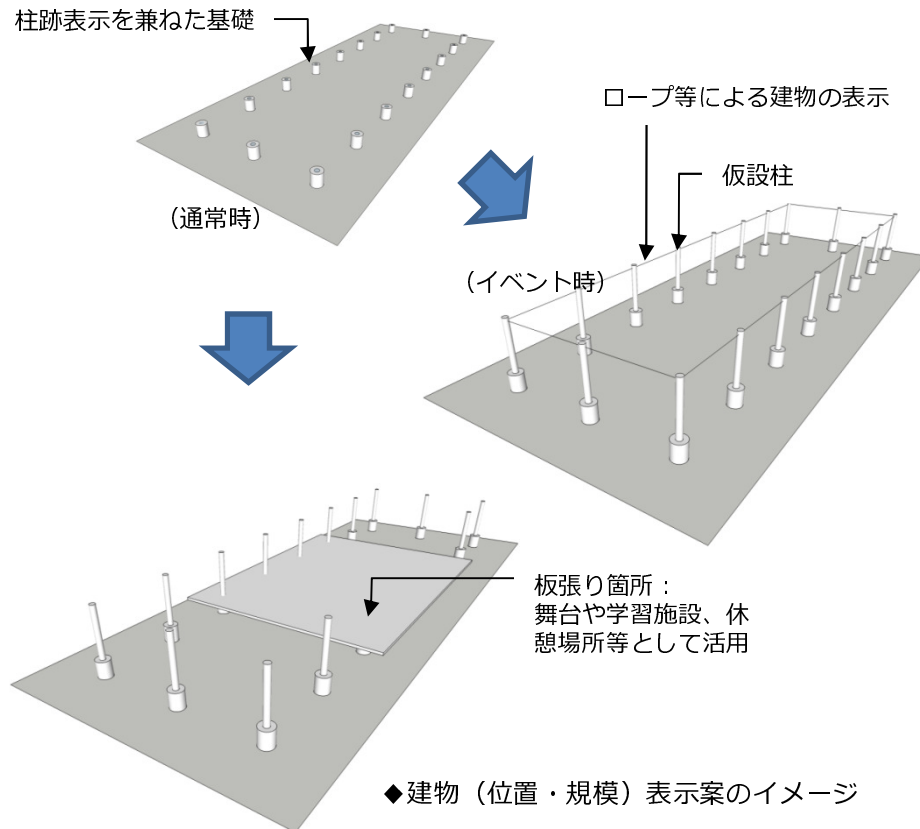


4 活用・整備のイメージ

b. 建物（位置・規模）表示案

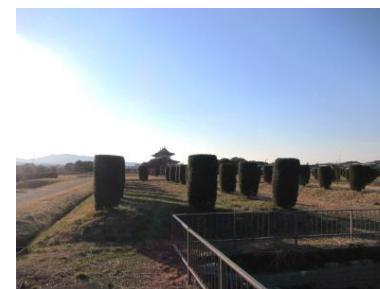
- 取り外し可能な仮設の柱等により、往時の建物の平面的な大きさや柱の配置などを表示する
- 一部に板張りの箇所を設けることにより、イベント時の舞台や屋外の学習施設、休憩場所等としての活用にも対応する



◆遺構表示の事例
：藤原宮跡
柱の表示



◆遺構表示の事例
：平城宮跡
柱と壁の表示

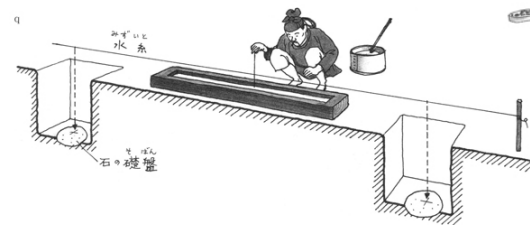
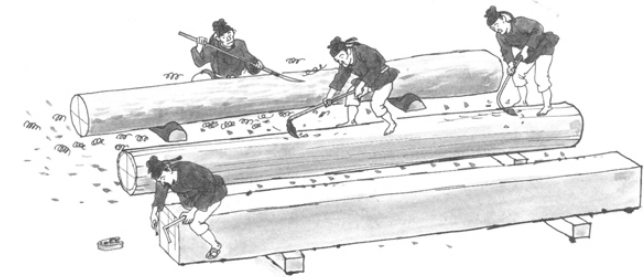


◆遺構表示の事例
：平城宮跡
植栽による柱の表示

4 活用・整備のイメージ

c. 宮殿復元プロジェクト案

- 飛鳥宮跡におけるシンボリックな事業として、ボランティア（来訪者および住民）を主体とするプロジェクトチームによって往時の建物を再現する
- ボランティアを中心とする多様な参加者の協働作業によって、宮跡の活用・整備を目指す
- 協働作業を通じて、飛鳥時代の宮や往時の生活・技術をより深く体感・体験していただくきっかけとする
- 協働作業を通じて、参加者や支援者の交流を深めるとともに、伝統技術の継承、経済の活性化に資する



◆作業のイメージ
：「日本人はどのように建造物をつくってきたか⑦平城京」草思社1986より

【期待する効果等】

- 地域の農林・土木などの「産」や考古学・建築史などの「学」の支援を要請し、多様な関係者による協働作業として運営する
- 定期的・継続的にボランティアを募り、参加者を増やすことで体験を通じた知識や技術を継承する
- クラウドファンディングやふるさと納税などによる資金確保など、多くの人に関わる機会を提供する
- 建築の過程をイベントとして公開するなど、活動の成果を、目に見えるものとして共有する



◆作業のイメージ：町衆による鉾の組立（京都・祇園祭 菊水鉾）

4 活用・整備のイメージ

(2)サイン等

a. 解説サイン

- 地下に存在する（今は見えない）遺構を、発掘時の画像やイラストを用いて、来訪者にわかりやすく伝える



◆解説板の事例：史跡上総国分尼寺跡

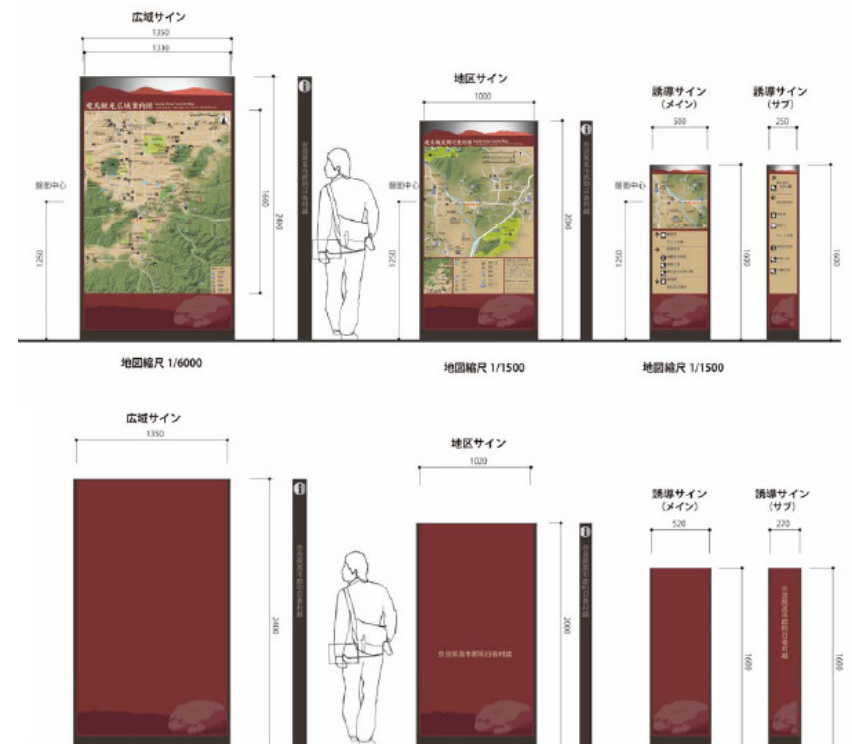


◆解説板の事例：国営飛鳥歴史公園キトラ地区

画像表示等による
地下遺構の「見える化」

b. 案内サイン

- 宮跡内及び周辺に、飛鳥宮跡一帯に点在する関連遺跡の案内等を行う案内サイン（広域サイン、地区サイン、誘導サイン等）を適宜設置する
- 案内サインの設置については、「飛鳥観光案内サイン整備計画」に基づくものとし、飛鳥地方（明日香村、橿原市、高取町）全体で統一された意匠や表示形式を採用する



出典：「飛鳥観光案内サイン整備計画」国交省・国営飛鳥歴史公園事務所H 27.3